



# SESERAGI—MISHIMA ROTARY CLUB WEEKLY REPORT

クラブ  
週報

2024～2025年度 RI会長 ステファニーA.アーチック  
RIテーマ ロータリーのマジック

クラブテーマ「ロータリーの理解を深め、地域社会にロータリーのマジックを広めよう」

会長 仲原実圭 幹事 原 兄多

## 第1578回例会 2024.9.13(金)晴

司会：高村勝則君

ロータリーソング「我等の生業」指揮：杉山寿美子君

事務所 三島市泉町9-8 1F南

TEL.055-976-6351 FAX.055-976-6352

<http://www.seseragi-mishima-rc.gr.jp>

せせらぎ三島ロータリークラブ

検索

例会場 呉竹

TEL.055-975-3210

毎週金曜日 第1・第3 夜間例会

### 会長挨拶

会長 仲原実圭君

先日、スーパーへ行っただんですが、本当に米が品薄ですね。びっくりしました。先々月、知り合いから米が残ってないか？との連絡があり、心当たりの米生産者に問い合わせとどころ何処も在庫切れで、「うちにも問い合わせが結構来てるよ」という返事もありました。我が家も昨年子供食堂に寄付して在庫切れでした。

報道では、昨年の大雨と高温の気候で不作とかインバウンドの増加で米の需要が多く米が不足している等々。公式発表では令和5年度の作況指数は101と不作ではなかったことも事実です。真実はどうなのでしょう？

ともあれ、今年も我が家の稲刈りが始まります。例年より1週間から10日ほど生育がいいようで、周りの田は収穫を終えています。父親からは、「みつもないから早く刈入れろ」と煽りの連絡が入っていますが、なだめて時間稼ぎをしている最中です。

さて、今月のロータリー月間のテーマ「基本的教育と識字率の向上」の続きです。

TRFはどのようなプログラムで対応しているのか？

まずはビデオをご覧ください「世界でよいことを使用」を放映・・・

ロータリー財団の目標

ロータリーは、すべての子どもたちの教育を改善し、子どもと成人の識字率を高めるための活動と研修を支援します

・基本的教育と識字能力をすべての人々に与えるために地域社会の力を高めるプログラムの支援

・成人の識字率の向上

・教育における男女格差を減らすための活動

・基本的教育と識字率向上に関連した仕事で活躍していくことを目指す専門職業人のための大学院レベルの奨学金支援

次に「ロータリーの友」から、山形県の高島RCの活動をご紹介します。

『読書を糧に、あいと善意の心を育む』というテーマで、山形県の高畑RCが町内の新1年生と学童保育所に「日本のアンデルセン」と呼ばれている浜田広介の図書をプレゼントしたという奉仕活動です。

ある大学の先生が

‘もはや授業崩壊。学生は私語を交わし、講義を聞かず、ましてや本など読まない。教団に立って無力感を覚える’活字離れが加速している日本では、国際調査でも子供たちの読解力が低下しているとうデータもあるそうです。

子どもの読書週間は、私たち大人に責任がある。心豊かな人間になってもらい、コミュニケーション能力を育てるためにも、読書活動は大切である。

愛と善意と確かな判断力を身に付けて、将来に立ち向かっていく姿を期待したい、とのメッセージです。

### 出席報告

	出席総数	出席率	メイクアップ	修正出席率
前々回	24/38	63, 16%	26/38	68, 42%
今回	25/39	61, 54%	会員総数	40名

#### 欠席者

あなたが見えなくて残念でした。

新井君、石井君、伊丹君、大川君、岡君、加藤(正)君、杉橋君、土屋(和)君、土屋(巧)君、野村君、服部君、吉村君、米山君、渡邊君

(\*出席免除会員の欠席者 片野君)



### 幹事報告

幹事 原兄多君

1. 地区大会の登録を募集しています。

今年度は、三島RC、三島西RCと合同で行く予定です。

ご参加のほどお願い申し上げます。

## ・ご挨拶

本日の卓話、入会2年目の私に貴重な機会を頂戴しました。惜越ながら次のテーマでお話しさせていただきます。

## ・テーマ

「みなさん大注目の自民党総裁選」間違えました。「合衆国大統領選」政治的な話題はクラブ定款に抵触しそうなのでやめておきます。『農業の理解を深め、地域社会に農産業を広めよう』偶然にも仲原年度のクラブテーマを丸パクリ、いやオマージュしたかのようですね。今年は事あることに草刈りや農業のお話をさせていただきますので、卓話のテーマもなんとなく想像されていた方もいらっしゃるかもしれません

・私が目指す農業とは「農業の産業化」です。

・産業化とは 産業化という言葉自体に明確な定義はありません。私の考えでは、ほかの業界で当たり前に行っている生産性向上、IT化、そのほか伝統的生産方法の近代化や新技術の研究開発など。人材の多様化、個人の経験値に頼るばかりでなく、技術の言語化を通じた継承方法の改善など。付加価値の増大、品質向上はもちろん、生産面以外にも営業努力による販路開拓など。

これらを含めた「正常な競争と発展」のような取り組みを農業界でも行いたいということです。あえて言えば、このような取り組みをしなくても困らなかった時代が長かったということです。

・なぜ？ 日本の農業も江戸時代までは自給率100%でしたが、国際化が進んだ現在では、必ずしも自給率にこだわる必要はなく、国ごとの強みを生かせばよいと思います。ただし、こと穀物生産においては、欧州・アメリカ大陸だけでなく、東南アジアと比較しても日本の農業生産性は2週遅れ状態」です。

日本は、北海道を除き一つ一つの田畑の面積が小さい、これは国土の面積や地形による影響が大きく、仕方ない面です。しかし、日本は水資源や気象条件に恵まれていることもあり、土地の利用方法や栽培方法など、基本的な部分は戦後から変わらないままです。厳しい環境で収穫量や品質の維持拡大に取り組む諸外国の農業は進化していました。気付けば、種子・肥料・農業などあらゆる面で日本は後れをとっています。

稲作の例を挙げます。「水田がとれない栽培方法の開発」なんと戦後間もない1950年からヨーロッパで始まり、東南アジアでも普及しています。「お米は田んぼで作るもの」と思っているのは、もはや日本人だけかもしれません。「稲作は雑草との闘い」除草剤に強い品種を開発し、労力や資材のコストダウンを進めています。化学肥料の代わり、より効果の高い「バイオスティミュラント」の導入が進んでいます。※土壌の物理的改善や微生物の力を応用し、自然の力を利用した化学肥料に代わる農業資材。

・背景① 話は戦後にさかのぼります。戦後の財閥解体と同様、農地解放により、家族単位の小規模農家が大多数に。1955年の農家数は600万件、360万人、2020年の農家数は174万件、350万人。

・背景② 農家さんの規模を見てみると、8割は年商500万円以下、しかも4割は50万円以下、逆に年商1千万円以上は1割、3千万円以上は3%。年商3千万円って、他業界と比べると個人商店レベルだと思いませんか？実際、年商3千万円以下の農家数はすべて減少、逆に3千万円超の農家数は増えています。

・背景③ 農地の5割以上は水田、販売金額が最も大きい作物がお米という農家さん 56%。農業総生産に占めるお米の生産額 16%。稲作って儲からないんです。

・背景④ 高齢化と農業人口減少。背景①で説明した「2020年の農家数は285万件、350万人」は、兼業や商売目的でない農家さんを含む数です。農水省の直近の統計では、農業を主とする従事者は116万人に減少。うち、65歳以上が7割、平均年齢も67才に達しています。今後も農家さんは減るし、田んぼも畑も余ることは間違いありません。

・背景⑤ とりわけ稲作は「きつい、儲からない、補助金必須」のイメージが強い。私は「きつい・儲からない」の理由が気になり、現状を見聞きするうちに「ほかの業界では当たり前取り組みをしないのでは？」と思うようになりました。研究開発、設備投資、人材育成、IT化、販路開拓・・・これらができる農家さんが少ないとしたら・・・農家さんは減る一方・・・田んぼも畑も余っている・・・これは言い換えれば「チャンス」です。そしてこれに取組もうという結論に至りました。じつは、私の本職は課題があれば原因を探り、対策する「課題解決」を仕事としています。

## ・ここまでのまとめ

行政や農協の貢献で小規模農業が成立する時代が続いた。農家さんの規模が小さく非効率。団塊世代の引退に伴い、農業人口の減少は加速。伝統的農法を続け、種子・肥料・生産技術の世界的進歩に追いつかず＝ガラパゴス化(日本特有で進化しない状態)。

## ・課題

生産性の向上が急務です。他業界で当たり前に行われている「研究開発、設備投資、人材育成、IT化、販路開拓」などの経営努力を農業でもやろう！ということです。

## ・農業は国防の一丁目一番地

農業所得への補助金率のEU・米国を比較すると、国防への意識に比例しているかのような差が見取れます。スイス 100%、フランス 95%、イギリス 91%、アメリカ 40%、日本 15%。

国防というと大きさに聞こえるかもしれませんが、しかし、国際情勢に影響される「貿易」は安定していると言えますか？気候・天災・紛争など有事の際、真っ先に影響を受けるのが他国に依存する資源ですので、欧米はそのことを理解して農業振興に長年取り組んでいます。日本の農業を取り巻く環境に危機感を抱いていただけることを願います。

## ・人口は増え続ける

人口1億人以上の国で、人口減少しているのは日本と中国だけです。なので、国内のことだけを考えれば、コメは余るかもしれませんが、しかし、小麦を始めとした穀物は世界中で取り合いになる可能性が大きいのですが、その理由が「穀物を生産できる土地に限られているから」です。グラフの通り、世界の人口は増え続け、現在の80億人から2050年には100億人に迫る見込みです。いまでも人口の1割にあたる8億人が深刻な食糧不足に直面しているのです。

## ・閑話休題

私、小学校で強く影響を受けた担任の先生が二人います。一人目は3年生で「理科」の先生でした。理科の授業後、休み時間に「虫メガネの実験」と言いながら、校舎のベランダで愛飲のタバコに虫メガネで火をつけ一服、銘柄はJOKERでした。今では考えられませんね。でも、この先生の影響で理科が大好きになり、大学では化学を専攻しました。二人目は6年生で「よくわからないけど人気」の先生でした。平和憲法として憲法9条の話を書きかけたが「憲法に書けば戦争が起こらないのか？」と感じ、卒業文集の将来の夢には「防衛庁長官(当時)」と書いたものです。国防を意識した瞬間です。なんとなくですが、この2つの影響は今の行動にも

つながっている気がします。その後、私は大学進学～就職、起業などを経て30年あまり地元三島から離れていました。30年ぶりの帰郷。仕事のテーマは「課題解決」。問題があれば、原因を探り、対策を実行する。物事の原因や理由が気になる性分は「理系」の特徴でしょうか。そして、30年ぶりに帰った地元三島に貢献したいという純粋な思いから、この3年間、様々な方々との交流やボランティアに取り組み、自分がやるべきことを探しました。結果、今の私でも貢献できると思ったのが「農業の産業化」というテーマです

#### ・結論

あえて言えば「米をはじめとした穀物農業」の維持拡大は食料安全保障に直結する課題です。三島のため、伊豆のため、日本のためと思える稲作の改善に取り組んでいます。ちなみに明日から稲刈りを始め、11月中旬まではお休み返上で刈り倒す予定です。

#### ・参考

みなさんが気にされたであろう今年の“コメ不足”について。お米(主食用米と呼びます)は年間670万トンが生産され、単純平均で月に50万トンが流通します。今年6月末時点のコメ在庫は156万トンでした。7月～9月分の在庫は充分で、8月には新米も流通します。なのになぜ“コメ不足”と騒がれるのか、理由は“マスコミのあおり”による買いだめです。

簡単に試算すると、50万トン=5億kg、人口の5割がコメ中心の食事なので=6千万人、世帯数で2,400万世帯。5億kg ÷ 2,400万世帯 = 20kg。ということは、毎月1世帯当たり20kg以上の在庫がありました。

一人当たり月に5kg弱のお米を食べますが、内訳は自炊が7割、中食・外食が3割なので、1世帯あたり月に10kgあれば十分です。お米の在庫は地域により偏りがあり、マスコミ報道の影響を受けた一部の方々による買いだめから、地域によって一時的に店頭在庫切れに繋がっただけです。

## おめでとう

入会記念日 9月16日 大庭靖貴君



## スマイルボックス

杉山寿美子君:昨日は会社でスタッフさん達とBBQをしました。夏休みで帰省していた息子が1か月のアルバイトを終え、皆様の前で締めあいさつをしました。たのもしく跡継ぎ宣言をしてくれたのでスマイルします。

山口辰哉君:大谷さん、前回の私のスマイル、9月6日ですが、その翌日に期待通り45-46を達成しました。今回は、明日の土曜日(現地金曜日)アトランタでのブレイブス戦で48-49を期待して。でも、明日は雨、それも豪雨っぽい予報。

## ROTARY NEWS

世界中で活躍する「行動人」  
2024年9月

### 英国

クリストファー・ヒルさんは、38歳のときに心臓疾患があると診断されました。マンチェスター都市圏にあるボルトン・レバー・ロータリークラブの元会長であるヒルさんは、以来、自動体外式除細動器(AED)の推進に取り組んでいます。同クラブは2022年、ボルトン地域のほか五つのロータリークラブとともに、ボルトン・スチーム・ミュージアムのために約1,900ドルのAEDを購入しました。「田舎にいて、AED設置場所が何キロ、または何時間も離れていることがある」とヒルさん。ヒルさんは、ウォーキンググループのリーダーとして、この地域のトレイルに出かけています。そこでクラブでは、ヒルさんがトレッキングの際に携帯できる携帯型の使い捨てAEDを購入することにしました。また、クラブ会員33人全員が、AEDの操作方法に関する講習会や研修に参加しています。

### インド

ボンベイ・シーコースト・ロータリークラブは5月、任務中に負傷した退役軍人とその家族約150人を招き、コンサートと茶会を開催しました。クラブ会員が地元有名人とのつながりを生かし、クラブ会員で歌手のヴィジャイ・ミルチャンダニさんの妻、ニータ・ミルチャンダニさんが司会を務めました。元クラブ会長のサンパス・アイエンガーさんは次のように話します。「参加者たちは、音楽に合わせて踊ったり拍手をしたりしながら、喜びと活気に満ちた様子で参加していました。椅子に座ったまま、あるいは車椅子に乗ったまま参加した人たちもいました。まだ腕に力がある人は、いたわりの気持ちをもって、手足を失った元兵士の仲間も楽しめるよう手伝っていました」